

遊休農地の解消に取り組み、エコ栽培や農空間保全を実践

上高向地区農空間づくり協議会（河内長野市）

- 上高向地区は石川流域に位置し、河内長野市内の主要な農業地域です。
- 一方、農業者の高齢化が進む中、遊休農地の削減、地域景観や営農しやすい環境の維持などの課題に取り組む必要がありました。

【地区概要】	
取組面積	2.45ha [田1.81ha 畑0.64ha]
農業用施設	開水路 2.0km 農道 0.8km
主な構成員	水利組合、自治会
交付金	112冊（R7）

活動開始前の状況や課題

- 高齢化や後継者不足、高額な農業機械など、本地区の農業は様々な課題を抱えていた。
- 農作業の共同化や農業機械の共同利用といった、相互に支えあう協業化に取り組む必要があった。



取組内容

- 高齢化などで遊休化した農地を借り受けて、観作物としてレンゲを栽培している。その農地で環境に配慮して、「高向ほたる米」をエコ栽培している。
- さつまいもなどの収穫体験を通じて、河内長野市内の幼稚園児や地域住民に、農空間保全などの大切さを体現できるよう、体験農園を運営している。



取組の効果

- これまでの体験農園活動が評価され、JAと連携し、地元小学校の米作り体験（田植え、稲刈り）がR7年から始まった。
- ホタル（ゲンジ、ヒメ、ヘイケ）が自生しており、保全に取り組んでいきたい。
- 外環状線沿道開発で、周辺の優良農地の転用が進んでいるが、可能な限り農地や農空間の保全に取り組んでいきたい。

